

読売新聞大阪1月29日の「今日のノート」（ニュースライター前号ARK in the NEWS 参照）でアークの活動が紹介されて以来かなりの反響があったことから、読売新聞大阪本社編集部より、十分なスペースでさらに重要な点を詳しく論じては、という依頼を受けました。そこで、ご覧のように読売新聞大阪の「論点」において、私はアーク設立来の主張をさらに詳しく公に展開する機会を得ました。それに対して産経新聞3月22日の「斜断機」に以下のような論が掲載されました。これはアークの動物愛護活動の理念に関して誤解を生じさせる恐れがあり、反論する必要があると考え、4月21日にそれを同紙「談話室」に送付いたしました。以下がその原文です。

アーク代表 エリザベス・オリバー

垂れる前に、君を對西洋人が、少しは
考えなければならぬことがあつたのでは
ないか。人間に役立つ犬のような生物だ
けを他の動物から差別して愛護しようと
いうのは、果たし本当に「動物愛護」
なのか。君が誤つて引用したガンディは
そんな差別観に立っていないことは明ら
かだ。牛豚のたゞしいはなせ人間に消費
されねばならないのか。それと君の動物
愛護の關係を明らかにしてもいい。

キリスト教は元來人間と自然を峻別し
て、自然を下位においた。宗教改革者ル
ターは、信者の心の質に依つて、小鳥
は人間の目や、花は眼を樂しませるた
め、蛇は試練を与へたために神が創造し
たといふ、兎耳するまでも人間中心主義
の自然觀を暴露している。君の聞かぬ
ことも同じ筈だ。そういうキリスト教
的価値観丸出の西洋疏闊中心主義
こそが、動物不愛護、自然破壊の元凶だ
のじゃないのか。はるばるの東洋へ來
て宣教師面して傳へる説教をする前
に、せめてガンディをきちんと読み込
まねば。

(治)